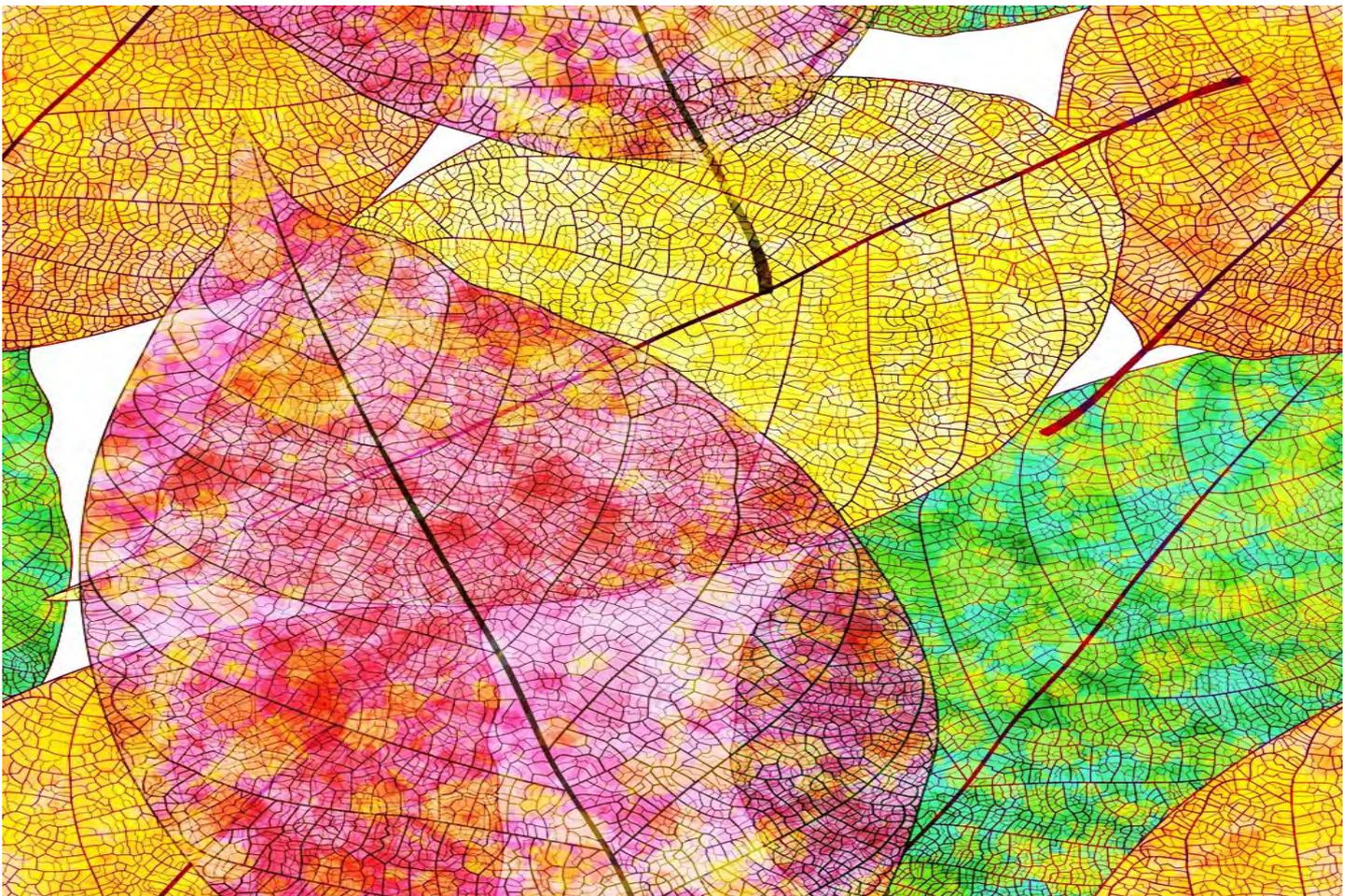


リコーロジスティクスグループ
環境経営報告書
2016

RICOH
imagine. change.



はじめに ～ステークホルダーの皆様へ

お客さまのために 社会のために 未来のために
お客様に対するサービスと信頼関係で成長する企業を目指します。

私たちは、お客さま、お取引先、地域社会の皆様、社員などの様々なステークホルダーの方々によって、企業活動を支えていただいていることを認識し、企業市民として、社会、産業、生活あらゆる分野に貢献していきます。

リコーロジスティクスグループは、コンプライアンス、環境保全活動、情報セキュリティ・・・などに取り組むことで、企業の社会的責任を果たすとともに、社会全体が求める物流、各産業・各企業が求める物流、グローバル化する各個人の生活が求める物流のひとつひとつを見つめ、全てを満足していただけるロジスティクスを追求します。

編集方針

リコーグループは、「環境保全と利益創出を同時に実現する環境経営」を目指しています。当報告書は、リコーグループの環境経営の考え方を受けて構築しているリコーロジスティクスグループの環境経営の考え方、活動事例などを情報開示し、社会とのコミュニケーションを図ると共に、環境活動と物流業の繋がりを広くお知らせするために発行しています。また環境活動と事業活動の報告を通じて、環境保全活動の環が社会に広がることを目指しています。対象読者は、リコーロジスティクスグループの企業活動に関わるすべてのステークホルダー（お客様、地域の方々、パートナー、従業員等）の皆様です。

報告対象

リコーロジスティクスグループの中で、国内にてISO14001:2004認証を取得した全組織の活動実績データを基本的な対象範囲としています。なお、特筆すべき事項がある場合には、対象としている組織以外のデータを使用している部分もございます。

報告対象期間

2015年度

(2015年4月～2016年3月)

(活動報告については、一部に対象年以

表紙イラスト
著作者：
youtodesign.com

目次

はじめに ～ステークホルダーの皆様へ～	1
トップメッセージ	2
環境経営	3
環境保全と利益創出を同時に実現するグリーンロジスティクス	4
リコーグループ環境経営4本の柱	4
動脈物流・静脈物流 一気通貫物流ネットワーク	
物流の高品質化、高効率化による環境負荷低減	
リコーグループ温暖化防止中長期目標	
省エネルギー・温暖化防止	5
リコーロジスティクスの温暖化防止への取り組み	
営業車両利用における取組	6
地球にやさしい車両の使用	
エコドライブの推進/運転技能の向上	
輸出入コンテナ輸送 ～国際ロジスティクスセンターの取り組み～	7
コンテナラウンドユース	
コンテナ上積み設計に伴う輸送コンテナ本数削減	8
トラック輸送から鉄道輸送・船舶輸送への転換～モーダルシフト～	
省資源・リサイクル	9
リコーロジスティクスの省資源化への取り組み	
循環型ロジスティクスを支えるグリーンロジスティクス	10
クローズドマテリアルリサイクルの拡大	
クローズドマテリアルリサイクルを支える静脈物流ネットワーク	
特集1 関西リサイクルセンター～人と環境にやさしいリサイクルセンタ	11
特集2 共同物流センターの構築～人にやさしいをコンセプトに	13
環境を考慮した包装事業	15
包装開発 ～資材選択とリターンブル化～	16
生物多様性保全	17
地球環境の保全と地域社会のニーズに合わせた社会を築く。	
生物多様性保全	18
リコーロジスティクス社会貢献活動方針の制定	
森林生態系保全活動	
河川・海岸・露地での生物多様性/環境保全活動	19
表彰/認定	19
環境マネジメントシステム	20
ISO14001:2004認証	
リコーロジスティクスグループ CSR方針	
会社基本情報	21
会社の歩み	22

トップメッセージ

平素より格別なご理解とご支援を賜りありがとうございます。

リコーロジスティクスグループは1964年に株式会社リコーの物流部門が独立して誕生し、現在、国内は100を超える拠点、海外では約10拠点を有する総合グローバルロジスティクス企業として成長、「安心・安全・確実な物流」を基本概念とし、経営理念である「お客様から信頼され続けるプロ集団を目指す」のもと、環境保全と経営を同軸とする「環境経営」に責任を持って取り組み、社会と地球環境の持続可能性に貢献することは社会的責任を果たすことであり、企業価値を高め、お客様からの信頼の獲得と成長に欠かせないと考えています。

「環境経営」の取り組みとして、動脈物流（包装設計・調達・生産・販売）から静脈物流（回収・再生・処理）までの“一気通貫の物流ネットワーク”である「循環型ロジスティクス」を構築し、その過程における温室効果ガス排出量抑制や廃棄物の3R（Reduce, Reuse, Recycle）を事業上、関西リサイクルセンター、物流センター横浜内の共同物流センター構築という大規模な投資による具現化のみならず、私どもの運送事業を支えるドライバーの向上省エネ運転にも繋がる安全運転技術向上を狙いとしたドライバーコンテストも2016年度で4回目を迎えました。更に包装設計においては2016年度世界パッケージングコンテストにて「ワールドスター賞」を受賞するなど着実に歩みを進めております。

また「地球環境の持続可能性」に責任をもって取り組む為に、グループ従業員一人ひとりの意識向上策として、生物多様性が豊かな「森林生態系保全」に着目し、東京都との「企業の森・リコーロジスティクスグループ（御岳）」の協定やNPO等の活動に積極的に参加、実践的な啓蒙にも努めています。

私たちは物流企業として社会への責任を果たす為に、「環境経営」の基盤である「コンプライアンス最優先」を貫き、コンプライアンスを事業活動の基盤とした法順守と社会的規範を心がけ、行動することによりお客様、社会、会社の発展の同時実現にグループ一丸となって取り組んでまいります。



リコーロジスティクス株式会社
代表取締役 社長執行役員
若松 勝久

経営理念

私たちは、グローバル物流企業としてすべてのお客様から信頼され続けるプロ集団を目指します

目指す姿

1. 世界5極全てでお客様の困りごとを解決しグループ全体最適な物流サービスが提供できている
2. リコーグループ事業とのシナジーの創造によりお客様の事業拡大にお役立ちしている
3. 一人ひとりが旺盛なチャレンジ精神を持ち、会社と社会の発展に貢献している

行動指針

1. 顧客起点
すべての行動を顧客起点で実践し、お客様の困りごとを先取り解決し 期待以上の“満足”を提供する
2. チャレンジ
現状に満足せず、常に新たな発想と技術でK A I Z E Nし続ける
3. スピード
環境変化を素早く捉え、スピードを持って行動する
4. 公明正大
すべての行動を公正、公平に実践する
5. コンプライアンス
常に法順守と社会的規範を心がけ行動する

環境保全と利益創出を同時に実現する グリーンロジスティクス

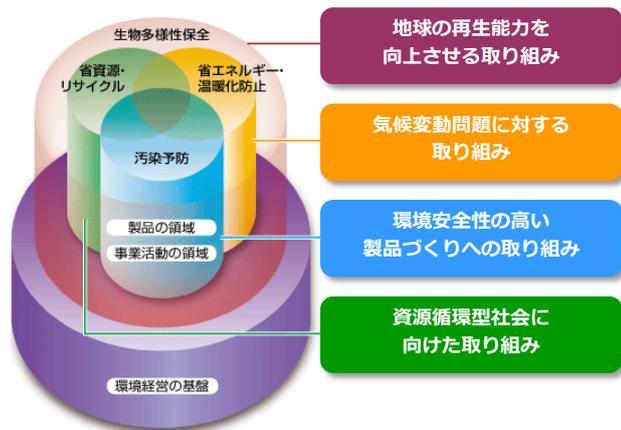
私たちリコーロジスティクスグループは気候変動、資源の枯渇、生態系の劣化などの地球環境問題に物流事業者として事業環境の変化に対応しながら環境負荷削減に最大限の努力をしています。



物流センター愛川

リコーグループ環境経営 4本の柱

リコーグループの「環境経営」は、環境保全と利益創出の同時実現を意味します。リコーグループは事業活動において排出される環境負荷を低減する「省エネ・温暖化防止」「省資源・リサイクル」「汚染予防」と、地球の再生能力を高めるために必要な「生物多様性保全」の4本の柱で活動を推進しています。

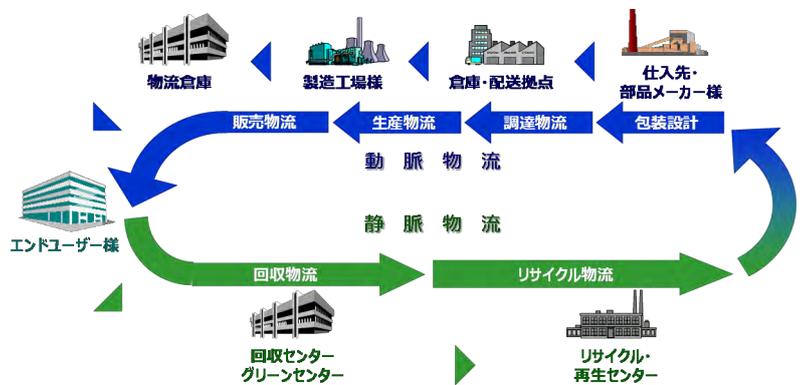


動脈物流・静脈物流

一気通貫物流ネットワーク

私たちリコーロジスティクスグループは、環境負荷の少ない「循環型ロジスティクス」を構築しています。

工場で製品を製造するためのパーツ、完成した製品をお届けする「動脈物流」、使用済み製品を回収・リサイクルする「静脈物流」を合わせた一気通貫の物流ネットワークである「循環型ロジスティクス」を推進しています。更に、このネットワークの中で発生する様々な環境負荷を認識し、多岐にわたる環境保全活動に取り組んでいます。



物流の高品質化、高効率化による環境負荷低減

私たちはリコーグループ温暖化中期目標達成に向け物流の高品質化、高効率化を進めています。

・高品質化

倉庫内作業や配送時のPDA活用や作業の標準化、情報システムによる情報の一気通貫、従業員トレーニングセンターでの徹底した訓練による高品質化への取組。

・高効率化

消費動向に合わせた全国最適在庫配置、倉庫内レイアウトの最適化、輸送における車両の使い方、運び方、輸配送網の改善などによる高効率化への取組。

・環境貢献

輸送手段を鉄道・船舶輸送(モーダルシフト)へ切り替えることによりCO2排出量抑制を進めています。



トレーニングセンター
複合機搬入訓練

リコーグループ温暖化防止 中長期目標

2020年と2050年を照準年として、省エネ・温暖化防止に省資源・リサイクル、汚染予防を加えた3分野での目標を示した。3分野の主なターゲットは、「ライフサイクルでのCO2排出総量の削減」「資源枯渇の動向を視野に置いた新規投入資源量の削減」「ライフサイクル全体での化学物質によるリスク最小化の実現」。この目標は、3年ごとに策定される「リコーグループ環境行動計画」に落とし込まれ、目標達成に向けた実効性の高い活動を各分野で展開しています。^(※1)

※1 2014年度

リコーロジスティクスグループCO2排出量(国内) 9,772トン

中長期目標	リコーグループライフサイクルでのCO2排出総量(5ガスのCO2換算値を含む)を、2000年度比で2050年までに87.5%、2020年までに30% ^(※) 削減する。 *1990年度比34%削減(国内CO2)相当。
考え方	IPCCの警告に基づき、世の中が目指すべき削減レベルを目指し、ライフサイクル全体で目標を設定する。 事業活動で直接排出するCO2は、生産・物流などのステージごとに目標を設定し、確実に削減する。 製品の使用電力削減は、高い目標を掲げて積極的に取り組む。 調達ステージにおいては仕入先様とともに活動を展開する。
主な活動	製品の環境性能を向上させ、その性能をお客様に簡単に使っていただくための技術開発 製品の環境性能をお客様にフル活用していただくための提案活動 生産プロセスの革新による低炭素もの作り 太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用 製品の小型化や長寿命化、リサイクルにより調達ステージでのCO2排出削減 仕入先企業の環境負荷削減の支援 物流のCO2把握システムのレベルアップ、物流の効率化、モーダルシフト

リコーロジスティクスの温暖化防止への取り組み

私たちリコーロジスティクスグループにおいて省エネ・温暖化防止への取り組みは輸配送と倉庫の二つのステージに分けることができます。具体的には、輸配送のステージでは車両の化石燃料使用を削減、低公害車の導入やエコドライブ、モーダルシフト、更にエコにつながる安全運転の模範づくりとしてドライビングコンクールを実施しています。そして 倉庫（オフィス含む）のステージでは省エネ型照明器具や空調設備の導入、さらに運用改善に取り組むことで電気やガスなど間接的な温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいます。



第4回リコーロジスティクスグループ ドライバーコンテスト 点検技能競技の様様

営業車両利用における取組

地球にやさしい車両の使用



リコーロジスティクスグループでは、輸送に使用する営業車両をディーゼル車以外にCNG車(※1)やハイブリッド車(以下HV)等の地球環境にやさしいトラックを使用しています。さらに安全運転評価やエコドライブ評価機能を持つデジタルタコグラフ(※2)、アイドリングストップ装置(※3)を導入しています。営業車両以外の自家用車には電気、プラグインHV、HV車を多数使用しています。



※1 CNG車(CNG: Compressed Natural Gas)

圧縮した天然ガスを燃料とする自動車。CNGはメタンを主成分としているため、炭素の割合が低く、大気汚染の原因となる硫黄酸化物の発生量を大幅に削減することができる。また、PMや黒煙も排出しない。

※2 デジタルタコグラフ走行速度/急発進/急ブレーキ回数/アイドリング時間などの運転状況をデジタル情報で記録し、省エネ運転の数値評価ができる計器。通称デジタルコ。

※3 アイドリングストップ装置

信号停止時等に自動的に車輛エンジンを切りアイドリングを停止させる車輛搭載機器。

※4 エコドライブ

燃費向上のために自動車などのユーザーが行う様々な施策や、そうした配慮を行った運転のことである。自動車は同じ距離を移動するにも、運転方法などによって消費する燃料の量に差が生じる。また、消費する燃料の量の増加に比例し、CO₂排出量も増加する。地球温暖化防止のため、エコドライブが推進されている。

※5 エコドライブ活動コンクール

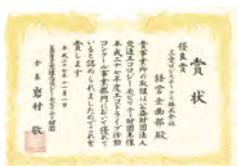
交通エコロジー・モビリティ財団がエコドライブを普及推進するための活動の一環として、「エコドライブ活動コンクール」を開催して優れた取組みを行っている事業者および団体を表彰し、その取組み内容を紹介することで更なる普及を図っている。

エコドライブの推進/運転技能の向上

エコドライブ活動コンクールへの参加

リコーロジスティクスグループではエコドライブ(※4)の推進にあたり、その実力を計る場として、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団主催の「エコドライブ活動コンクール(※5)」に2008年からエントリー、8年連続で入賞、2015年度は10事業所が入賞及び認定証授与を果たしました。

2015年度は、他社を含め事業部門436件のエントリーの中から、113事業所が入賞、内52事業所が認定証授与を果たしています。



ドライバーの技能向上と安全への意識向上

一般的に安全運転は環境負荷低減に繋がります。例に挙げればタイヤの適正な空気圧は燃費向上に繋がります。また急加速、急発進をしない運転は商品の荷崩れ防止と燃費向上に繋がります。

私たちは物流企業として、ドライバーの法令知識、運転・点検技能のさらなる向上と安全運転への意識を高め、事故削減につなげることを目的として2013年から「リコーロジスティクスドライバーコンテスト」を全国から代表者を募り、年に1度開催しています。



総勢15名の各事業部代表ドライバーが参加したドライバーコンテスト。「1. 日頃の運転技術や知識を競い合い、事故撲滅の意識を高める」、「2. お互いに切磋琢磨することで、モチベーションを上げる」を狙いに筆記試験、実技試験[運転技能(左)、点検技能(右)]を2トン車部門、4トン車部門の2部門で技量を競い合った。(写真は2016年度の第4回コンテストの様子)

輸出入コンテナ輸送 ～国際ロジスティクスセンターの取り組み～



左／国際ロジスティクスセンター外観
 リコー及びリコーグループ関連会社の輸出入 Key 拠点の機能を持つ。輸出では国内生産拠点からセンターに集約された貨物（複写機本体と周辺機器など）の混載を行い、船舶、航空機で海外拠点へ複合一貫輸送を行う。輸入ではリコーグループ海外生産拠点から輸入された貨物を国内各工場への配送を行う。リコーグループの国際物流の拠点として保管、梱包、コンテナ詰め、保税、通関などの機能を有し、AEO（※1）認定事業者としてのコンプライアンス及びセキュリティ体制も整っている。

※1 .AEO（Authorized Economic Operator）の略
 国際貿易の安全確保と円滑化を両立させるため、貨物のセキュリティ管理と法令遵守の体制が整備された国際貿易に関連する事業者（輸出者、輸入者、倉庫業者、通関業者、運送者、製造者）に対して、税関長が承認又は認定を行なうことにより、当該事業者に係る貨物の通関手続きの簡素化・迅速化を図る制度。



コンテナラウンドユース

コンテナラウンドユースは、輸入コンテナを荷卸し後、空いたコンテナを輸出荷積みに継続して利用することで、使用効率を向上させ、全体での走行本数・走行量を減らし、CO2、排気ガス排出量削減などの環境負荷低減に寄与する取り組みです。（※2）

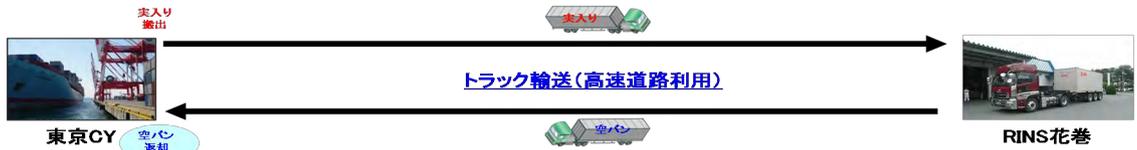
国際ロジスティクスセンターでは、2015年8月から宮城県花巻市に所在するリコーインダストリアルソリューションズ株式会社（以下RINS）向けに鉄道輸送[モーダルシフト]とインランドコンテナデポ[ICD]（※3）を利用したコンテナラウンドユースを組み合わせた輸入物流改善（※4）に取り組んでいます。

※2 コンテナラウンドユース
 2015年度実績
 20FTコンテナ 6本
 40FTコンテナ 7本
 CO2排出量 9.1トン削減効果

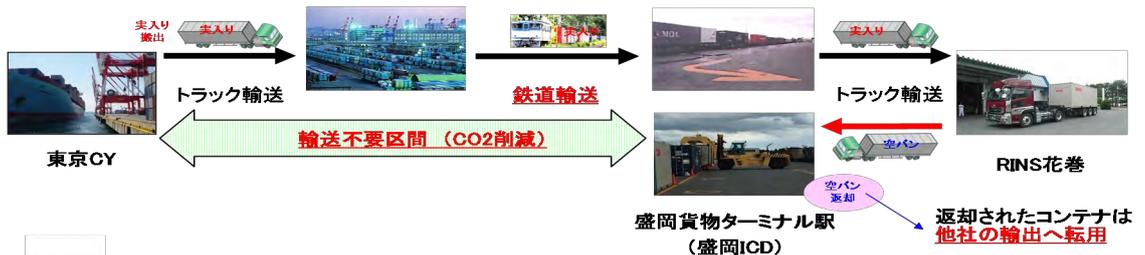
※3 インランドコンテナデポ
 Inland Container Depotの略。輸出入する貨物の荷捌きをする施設を兼ねた内陸型の海上コンテナを一時的に集積する場所のことです。

※4 輸入物流改善
 東京盛岡間を鉄道輸送に、通常は東京へ空のコンテナを返却する必要があるが、盛岡ICDを利用し、他社輸出に利用することにより盛岡東京間の輸送を不要とした。

【改善前】ドレイジ(トラック)輸送



【改善後】鉄道輸送、盛岡ICD(インランド・コンテナデポ)の活用

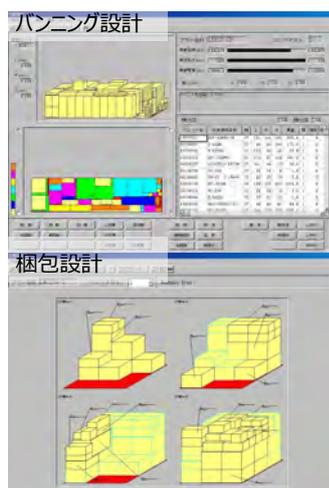


コンテナ上積み設計に伴う輸送コンテナ本数削減

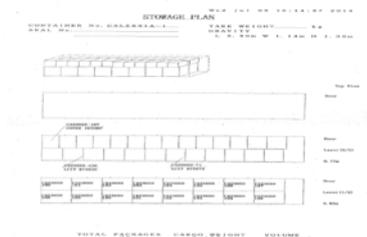


北米、欧州、中国輸出においてリコー大型複写機を40フィートコンテナに積むと上部空間が空きスペースとなりますが、そのまま輸送することは輸出貨物全体の物量に対してコンテナ本数削減が出来ないこととなり、輸送時に排出されるCO2も削減することができません。そこでコンテナの上部空きスペースに大きさの異なる貨物を積むことで、全体のコンテナ本数を減らし、輸送コストと

CO2排出量の削減に寄与する取り組みを行っています。従来は積み込む人のノウハウに頼っていましたが、今は専用に開発された貨物積み付け支援システムにより面倒な積み付け計画を3Dで可視化することにより短時間で立案。多様な積み付け条件を考慮し、効率の良い積み付けアルゴリズムを用いて貨物配置を自動立案します。



パニングプラン



トラック輸送から鉄道輸送・船舶輸送への転換 ～モーダルシフト～

モーダルシフトとはトラック輸送から地球にやさしく大量輸送が可能な鉄道輸送、船舶輸送への転換を図ることをいいます。「CO2排出量削減^(※5)」など地球温暖化や、「トラックによる交通渋滞緩和」、「交通事故縮小」、「輸送量に対しての省人化」などその他社会課題対応への効果を期待されています。

例えば、(株)リコーが中国で製造した複合機(MFP)、レーザープリンター(LP)という主力製品群の輸入に関して、従来東京港に陸揚げを行い、コンテナトレーラーで仙台近辺に所在するリコーインダストリー(株)に陸送をしていましたが、陸揚げ地を仙台塩釜港に変更、内航船による輸送に転換したことにより陸送と比較して、年間740トンのCO2排出量削減に結びついています。

※5 鉄道輸送によるCO2排出量削減実績(2015年度)90トン



リコーロジスティクスの省資源化への取り組み

輸送時の化石燃料利用以外にも、木製パレット、包装用資材としての紙の利用など物流において天然資源を起源としたものが多く使用されています。ここでは省資源の視点でリコー製品のリサイクル事業、そして物流事業者として共同物流、包装事業等資源を無駄なく効率よく使用するための取り組みについてご紹介します。



リサイクル事業 使用済み製品 分解作業

循環型ロジスティクスを支えるグリーンロジスティクス

※1 クローズドマテリアルリサイクル

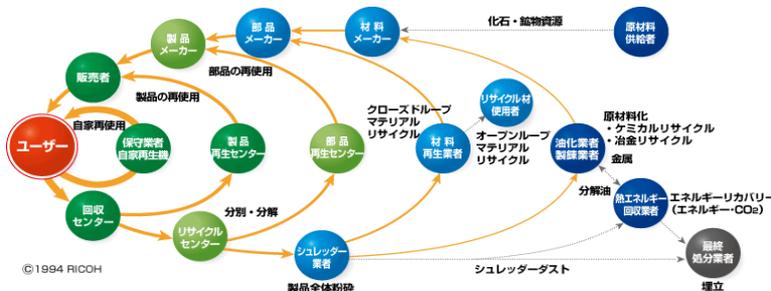
回収した自社製品の再資源化手法のことで、自社で分解、破碎した後、自社製品としての再生を行うこと。使用済み複写機のプラスチック部品をリコー独自のグレード毎に選別し、再生処理の上でコンパウンド/成型を行い、複写機部品として再生する。

それとは別に自社製品以外の商品として他のリサイクル材使用者が再生を行うことを「オープンマテリアルリサイクル」という。使用済み複写機のプラスチック部品を混合回収し、ABS / PS等種類別に選別した上で、フレーク・ペレット化し、原材料として販売するか他製品として再生する。

クローズドマテリアルリサイクル(※1)の拡大

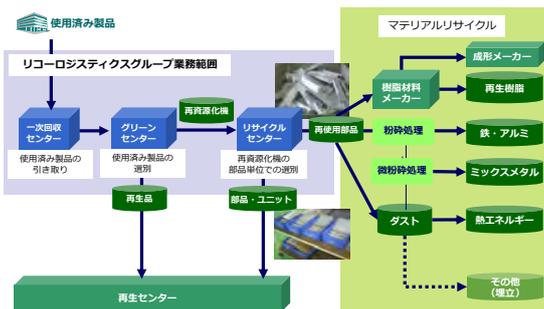
「新規投入資源量を2020年までに25%の削減(2007年比)」を目指した

リコー複写機部品材料の内部再生処理の取り組みについて



リコーグループでは、回収した自社製品の再資源化手法に関する基本理念として、「コメットサークル」という考え方を示しています。「コメットサークル」においては、リユース/マテリアルリサイクル/ケミカルリサイクル/エネルギーリカバリーという順で再資源

化における優先順位を明確化しており、「廃プラスチック」の処理においてもその考え方が適用した上で、「ゼロエミッションにおける中身の改善」に取り組んでいます。



2015年度実績

1. PPC複合機回収台数	136,429 台
2. マテリアルリサイクル率	
1) PPC複合機	95.0 %
2) プリンターパーツ	66.2 %
3) サプライ品	47.4 %

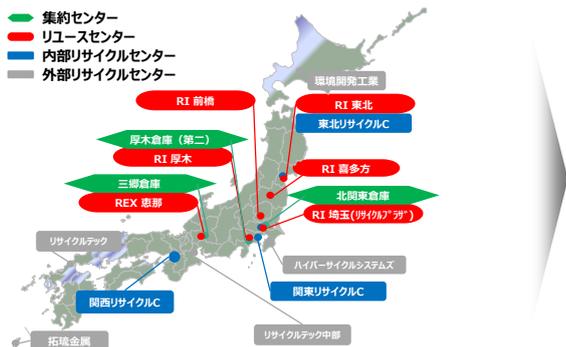
クローズドマテリアルリサイクルを支える静脈物流ネットワーク

※2 グリーンセンター
使用済みリコー製品の回収・集約・選別を行う拠点。選別後、各地再生センター・リサイクルセンターへ受け渡す機能を持つ。

※3. リサイクルセンター
グリーンセンターから届いた使用済みリコー製品の再使用部品選別と原材料としての再資源化を行う施設。

私たちは、荷主である(株)リコー及びリコージャパン(株)が廃棄物処理法における特例制度である「広域再生利用認定」を受け、広域再生利用認定産業廃棄物処理者として、責任を持ってリコーが製造した製品の収集・運搬業務、回収ロジスティクスを行うための静脈物流[回収&リサイクル拠点網]の再整備を2015年度から2016年度にかけ行い、分散型から統合型への転換を図っております。お

客様から回収した使用済みの製品は、全国の一次回収センターにて引き取り、グリーンセンター(※2)へと集約され、使用済み製品の選別作業を行い、再生品は再生センター、再資源化機はリサイクルセンター(※3)へ、適切な工程へと受け渡します。リサイクルセンターへと運ばれた再資源化機は手順に従って解体され、再使用部品とマテリアルリサイクル品に分別され、次工程へと受け渡されます。



<Before> 分散型



<After> 統合型 2016年10月時点



関西リサイクルセンター

～人と環境にやさしいリサイクルセンター～

日本において、リコーグループでは、1990年代はじめから「省資源・リサイクル」を環境保全活動の柱のひとつと位置づけ、市場から回収した複写機・レーザープリンター、トナーカートリッジ、消耗部品などのリサイクルに取り組んできました。今回、OA機器やオフィス移転で不要になった什器等の収集運搬と廃棄処理、及び、分別、解体によるリサイクル、リユースなど西日本の回収リサイクル事業を担うリコーロジスティクスグループ・三愛ロジスティクス関西に所属する関西リサイクルセンターを尋ねました。



左／関西リサイクルセンター外観
大阪府大阪市港区福崎に所在する。リコーロジスティクスグループ・三愛ロジスティクス関西 本社（※1）に隣接している。人と環境にやさしい建屋仕様を導入。騒音・振動・粉じん対策（本文参照）、温暖化防止の一環として全館LED照明化を行っている。

※1
三愛ロジスティクス関西
三愛ロジスティクス株式会社[関西]は、リコーグループの関西地区のオペレーションを担うべく、1977年に設立された。設立以来、主要荷主のリコーグループのみならず、物流センター関西を中核としながら、様々な企業様へ物流サービスをご提供している。従業員数246名、（2016年3月現在）尚、本記事においては「S L

※2 処理能力
実際に1.25トンの物量投入した結果の実測値。

規制への対応

－旧リサイクルセンター（大阪市西淀川区）から福崎に移転する際に法規制対応で苦労されたとのことですが。

一日に5トン以上に破碎処理を行う施設には行政の許可が必要です。大阪府は特に日本国内でもナンバー1の環境に関わる都市計画条例や規則を施行しています。例を挙げれば粉じんや騒音、そして振動を外部に漏らさない建屋造りを行わないと大阪府環境局都市計画課の認可がありません。

－許認可に関して、大阪府では一般的には2年から3年かかると思いますが。

今回、西淀川からの移転計画発令後、スタッフ全員一丸となって行政からの要求に対応することにより1年半で許認可を取得しました。これは誇れるべきことだと思っています。

騒音・振動の封じ込め

－許認可に関して具体例を教えてください。

まずは騒音の封じ込めです。「密閉」がキーワードになります。その対応方法として密閉度の高い密着式ドックシェルター方式を採用しています。具体的には2トン車用、4トン車用を装備しています。また、10トン車については、センター内部に駐車スペースを設け、規制内容に

即し、センター外部での回収品の荷役作業は行わないレイアウトになっています。

－振動についてはいかがでしょうか。

当センターには堅型破碎機が装備されています。処理能力は1時間あたり4.12トン^(※2)、処理物の大きさとしては1200mm以下なら破碎が可能です。従来、人が手分解で小型のプリンターやノートPCなどをプラスチックや金属に素材選別していましたが、破碎機による破碎処理、素材選別（常時従事者2名）、により生産性を向上させています。破碎処理時の振動対策として、免震構造による振動防止対策を、更に騒音対策と



～荷役作業の完全室内化～
騒音など環境規制に対応し、10トン車はリサイクルセンター構内に駐車する。



～手作業による素材分解～
すべてが機械化できるわけではない為、手作業における生産性が鍵となる。
複合機の解体作業を1時間当たり4、2台賈やしているが、3、8台に向上させることが目標。足もとの穴はその一環として解体時に発生するネジを落とし、回収する工夫をしている。

して第一にシートシャッターにより2重防壁、空気層を作ること、第2に壁の厚さを40cmにして音漏れを防いでいます。

女性や高齢者にやさしい環境

一騒音面、振動面について厳しい規制に適合したセンターということがわかりました。環境規制は「人にやさしく」という社会的責任の範疇でもあると思います。その視点で他に取り

組まれていることを聞かせて下さい。

そもそもリサイクルセンターのような業種は一般的に3K（きつい、危険、きたない）職場と思われるがちで、人材確保も業界の課題となっています。当センターでも素材選別について機械選別が不可能な、人に頼らなければならない素材選別作業があります。そこで女性や高齢者が従事できる作業環境の提供を目指し、第一に解体作業の工程分析

を終始行い、生産性を上げる為、人の動線モノの動きに係わる無駄取りと業務内容への平準化による「誰でもできる作業環境」の提供を試みています。第二に職場環境として大型の集塵機を複数台設置し、手作業によるトナーカートリッジの素材分解などによる廃トナーの粉じんを集めるなど空気浄化を行っています。



～翌型破砕機～

破砕処理後、素材選別方法として i. 振動スクリーン [ダスト収集] ii. 磁力選別機 [鉄材] iii. 渦電流選別機 [非鉄金属 (アルミ)] を通過後、最終的に人による手選別 [紙類・銅線]、最終選別 [MIXプラスチック] が行われる。



～集塵機～

各フロアで集めたちりや埃などをフレコンパックに集める。その結果、手分解フロアの床などが清潔に保たれる。^(※3)

見せる倉庫化

第三に「見せる倉庫」を目指します。^(※4) 見学者を受け入れるということは絶えず第三者を意識しながら、働く従業員自身も誇りを持って従事できる職場を作ることだと思います。その為に「人同士のコミュニケーション」を高める努力を行う必要があります。指導者の育成が急務になっています。

人づくり、指導者の育成

一指導者に求められることはどのようなことでしょうか。

第一に事業に関連する法令、罰則への理解、第二に品質・生産管理、つまり客観的に業務工程の無理無駄を見つけられること、そして異常値をキャッチできること、第三にリサイクル営業・技術のノウハウを有し、このセンター業務に対して同じ価値観で取り組める人材を育成すること

が重要だと考えています。
(取材内容を再構成)

※3 集塵機による粉じん濃度
厚生労働省の基準
3.0mg/m³

実績
①コピー機解体
0.02mg/m³
②サブライ解体
0.03mg/m³

※4 見学者数
15年10月オープン
から16年11月末で
24社・158名に上
る。



共同物流センターの構築

～人にやさしいをコンセプトに～

3PLとは「Third Party Logistics」の略語で物流業務全般を専門業者に委託（アウトソーシング）することを指します。3PLにより物流全体の最適化・コスト削減・省資源化などを実現し、お客様は経営資源をコア事業に集中していただくことが可能となります。今回、量販店向けサービスの提供として複数荷主の物流一元化を実現した共同物流センター（物流センター横浜内）を運営するリコーロジスティクスグループ・三愛ロジスティクス東京 を尋ねました。



左／物流センター横浜
外観
横浜市神奈川区守屋町に所在する物流センター横浜（S Gリアティ横浜内）に居を構えるリコーロジスティクスグループ・三愛ロジスティクス東京（※1）が2階、3階にて共同物流センター（2015年稼働開始）を運営している。

※1
三愛ロジスティクス東京
外販荷主（3PL運営）を主として設立されたリコーロジスティクスグループの会社。カメラ・写真用品関連商品やパソコン周辺機器を取り合つかう荷主を対象に3PLサービスを提供している。
従業員数150名、倉庫使用面積5,687坪（2016年1月現在）
尚、本記事においては「S L東京」と略す。

※2
公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会（JILS）様が主催する2016年度ロジスティクス大賞で、協働努力賞を受賞

二つの背景

－共同物流センター構築に至る背景を教えてください

3PLサービス提供事業者として第一にお客様の課題として「カメラ関連の市場規模・取扱い物量の減少傾向に対応した物流効率化による物流コスト削減」、第二に私たち三愛ロジスティクス東京（以下S L東京）の課題として「労働環境など物流センターの人手不足による人件費（物流コスト）への対応」があげられました。2013年当初は東京都大田区平和島に所在する東京

流通センター（以下TRC）にてサービス提供を行っていましたが、2015年建て替えに伴う取り壊しが行われることになり、お客様の利便性を考慮し、物流センター横浜に移転と同時に共同物流センターの構築を行うことにより課題解決を図りました。

共同物流へのチャレンジ

－競合同士のお客様、抵抗感はどのように解決されましたか

カメラ用品業界全体で物流費が上昇傾向にある中、競合だからこそ共同配送はメリットが高く「競争は販売で、物流は共同で行う」

をお客様間で合意形成できたことにより『量販店共同プラットフォーム』構築へのチャレンジが始まりました。（※2）

人にやさしい運用構築

－共同物流センターの特徴を教えてください。

2点あります。ひとつは「物流センターの資源を共有化した共同物流」。従来顧客別にレイアウト配置していましたが、複数荷主型のレイアウト配置と荷役・搬送・仕分け設備の共有化を図りました。ふたつめは「人にやさしい運用」です。従来、該当商品をピッキング



する時は担当者が所定の棚に歩いていきますが、当センターでは「ほしい商品が目の前にやってくる」という考え方を取り入れました。具体的にはオリコンに商品を格納する自動倉庫化を行い、指示に基づき必要な時に商品を自動搬送、担当者の手元まで運びます。担当者は目の前にきたオリコンから商品を取ればよく、商品知識が無

くても誰にでも作業が可能となり、さらに移動（歩行）の必要がなくなり、高齢者にも働きやすい職場環境の構築ができました。

生産性向上と省資源化

倉庫システムも入庫から保管、出庫まで棚卸を除く全ての工程をHHC^(※3)を利用したデータ連携を行うことにより、紙によるチェックが無くなり生産性も向上、結果



として一連の作業における紙の使用量は共同物流センター構築前と比較して半分以下に削減され、物流費削減として効果を出しています。

包装材レス

ー生産性向上策が環境貢献、社会貢献に繋がるわけですね。

環境貢献という視点であれば、商品の包装材レス、包装工程を

※3 HCC
ハンドヘルドコンピュータ (Handheld Computer) の略語。手のひらサイズの個人用の形態情報端末で、商品バーコードを利用した商品情報の倉庫システムへの登録による情報の効率的な利用や入庫検品、ピッキング、梱包情報登録、出庫検品作業などに利用されている。



～ほしい商品が目の前にやってくる～
オリコン用自動倉庫
1600アイテムを取り扱う。
省人化を実現し、3名体制で運用。

省いたオリコンによる配送（オリコン配送）サービスを提供しています。段ボールなどの包装材レスにより物流費の削減、更に森林資源の保全などに有効です。オリコンは名前の通り折りたたみ可能による保管場所の省スペース化、更に再利用が可能なので届け先での使用済み包装材の廃棄の手間や廃棄コストも省けます。



～スペース・空間の有効活用～
電動ラック
固定重量ラック設置時と比較して233坪、
パレット換算で579枚分の保管効率向上

共同配送・モーダルシフト

ー配送での取組を教えてください。
届け先が同一であれば同じ便に活用しています。輸送手段として九州方面は鉄道輸送を利用しています。

今後の活動

ー最後に今後の方向性を教えてください。

優れたシステムを導入しても、最

後は人です。モノを入れるのも人であれば、モノを出すのも人です。人と人のつながりを大事にしながら、作業面では極力人の手が加わらない工程設計による品質保証と省力化、そして物流の基本である5Sに力を入れ今後第2、第3の共同物流センター構築を視野に活動を進めていきます。

(取材内容を再構成しました。)

環境を考慮した包装事業

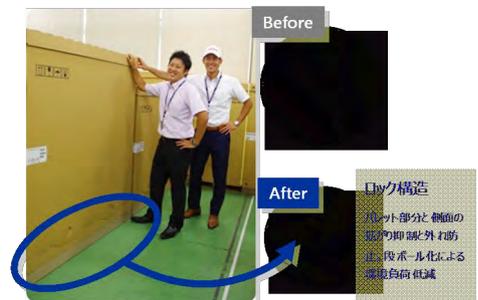
物流にとって包装材はなくてはならないもの。トラック・鉄道・船舶輸送における振動や、工場・倉庫・港湾の荷扱いにおける衝撃から大事な商品を保護するために適切な緩衝設計や包装材選定が重要とされます。私たちリコーロジスティクスグループでは、「包装」を事業として捉え、リユース・リサイクル可能な地球に優しく、さらに材料の軽量化、包装材の簡素化、包装作業性、経済性など物流におけるお客様のコストメリットを考慮した包装開発を行っています。

※1 世界パッケージングコンテスト

世界包装機構が主催し、世界の優れたパッケージとその技術の開発、普及することを目的として、毎年1回開催されるコンテスト。包装技術では、最も権威のあるコンテストとして知られ、優れた包装に対して「ワールドスター賞」が贈られる。このコンテストは、エレクトロニクスや食品、生活用品、医療品など、全ての包装部材を対象とし、各国の国内パッケージングコンテストにおいて、入賞した作品だけがエントリーできる。尚、リコーロジスティクスグループは2011年のジャパンスター賞受賞を皮切りに日本パッケージングコンテストにおいて6年間連続入賞。(2016年現在)



日本パッケージングコンテスト、世界パッケージングコンテスト(※1)表彰盾
写真左「包装技術賞」、写真右「ワールドスター賞」



2015日本パッケージングコンテストで「包装技術賞」受賞
2016世界パッケージングコンテストで「ワールドスター賞」受賞
「大型複写機用包装の紙製ジョイントロック改善」
リコーロジスティクス(株)、リコーテクノロジーズ(株)様、中津川包装工業(株)様の共同開発。
高さ160cmを超える大型機種用に作られたもので、パレット部分と側面の包装材を絡ませた状態でセットする「ロック構造」を導入。包装材の広がりを抑制し、外装破損を防止する。

包装開発 ～資材選択とリターナブル化～

地球に優しい包装開発のポイントは包装資材選択と包装容器を繰り返し使用する包装容器のリターナブル化の二つです。ここでは資材選択とリターナブル化の取り組みの代表的な事例を紹介します。

1. 「資材選択」



2014年度パッケージングコンテスト適正包装賞受賞

「段ボールバルク包装^(※2)」

容易にリサイクルできる安価な段ボールを用い、大量の粉状の製品を輸送できるようにした包装材。

通常、粉状、液状などの「流体物」と呼ばれる製品の包装材は、強度維持の関係上、ドラム缶などのコストが高くなる素材で開発される。

しかし今回、包装構造を工夫^(※3)することで対荷重4.5トンに耐える強度を維持した環境に優しく、段積みも可能な段ボール包装材を実現したことが、高く評価され2014年度パッケージングコンテスト適正包装賞受賞。

※2 バルク包装
バルクとは粉状、液状、粒状などの状態の貨物のこと。

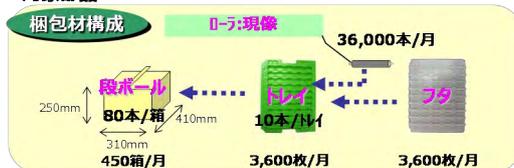
2. 「リターナブル化」

複合機などのリコー製品に使う周辺機器トレイや感光体などの各種部品を中国やタイの海外生産工場に輸出する際に利用する包装材(包装容器)のリターナブル化を行っています。但し単純に包装材(包装容器)を循環させるのではなく、日本に返却する際、コンパクトにまとめることにより、一回の輸送で大量に返却ができる様、回収時の容積縮小化を念頭に設計を行っています。

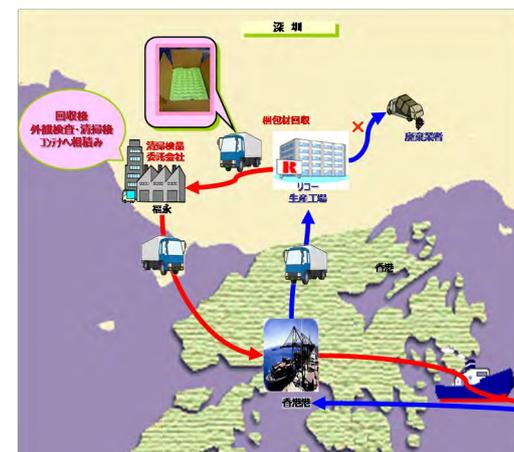
緩衝材トレイのリターナブル化を例にとれば、回収された複合機で利用するローラの輸出に利用した緩衝材トレイの清掃、検品(外観検査)、良品判定を現地委託先にて行い、良品に関しては日本に戻し再利用します。不良品に関しては現地にてリサイクル(プラスチック材料として再資源化)を行っています。回収率と再利用率の向上がこの取り組みのカギとなります。

※3 包装構造の工夫
単なる四角枠の段ボールでは内容物を入れると面の中央に圧力が掛かり、胴膨れを起こしてしまう。開発した包装材は、四角枠の中の筒状の段ボールを組み込むことで、圧力を分散させ、胴膨れを起こさずに、安全な輸送を可能にした。段ボールの材質もコストの面からダブル段ボールをあえて採用し、素材の強度ではなく、構造で全体の強度を保っている。

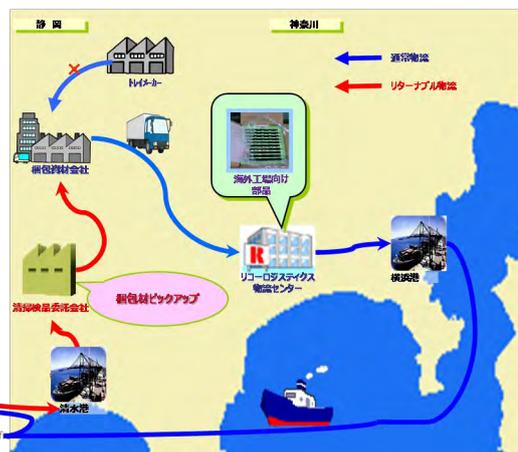
■対象部品



■物流イメージ



■リターナブル実施内容



事例：緩衝材トレイのリターナブル化

地球環境の保全と地域社会のニーズに合わせた社会を築く。

リコーロジスティクスグループでは、事業活動における生物多様性保全を意識してゆくとともに、「グループ組織の社会的責任活動」として、森林保全活動や河川清掃活動などを通じて、豊かな地球生物の多様性保全と持続可能な社会づくりの支援をしています。



温室効果ガスを排出する物流企業として、温室効果ガスを吸収する森林を保全する森林生態系保全活動「とうきょう森づくり貢献認証制度」の認証を受けた「企業の森・リコーロジスティクスグループ（御岳）」：東京都青梅市

生物多様性保全

リコーロジスティクス社会貢献活動方針の制定

CO2を排出する物流事業者として、CO2を吸収する森林と全ての地球環境を支える生物多様性の重要性を理解し、森林生態系保全を含めた社会貢献活動を行っていくことが必要だと考え、生物多様性保全活動の中でも森林生態系の保全を重要視しております。また、環境の保全活動を行うと共に、活動を通じて環境の実態を肌で感じ、地球環境への理解を深め、その環を拡げていくという「人づくり」も重要と考えています。その考えの下、「社会貢献活動方針」を2011年12月に制定いたしました。

森林を始めとした地球環境という素晴らしい財産を引き継いでいくために、社員の社会貢献活動の活性化を願う思いがこの社会貢献活動方針に込められています。

・社会貢献活動方針

基本方針

リコーロジスティクスグループは、リコーグループ生物多様性方針、リコーロジスティクスグループCSR方針に則り、温室効果ガスを排出する物流業者として、温室効果ガスを吸収する森林と、全ての地球環境を支える生物多様性の重要性を理解し、生物多様性保全のための社会貢献活動を実施する。並びに社会貢献活動による、地球環境の重要性を理解する「人」を育成し、リコーグループとして、持続可能な社会づくりを目指す。

行動指針

今をそして 将来を生きる世代のために 未来へ続く「青い地球、緑あふれる社会」を これからも・・・

1. 地球温暖化の抑制に努める
2. 地域特性に合わせた生物多様性の保全を実施する
3. 多様な地球環境とのふれあいを通じて人を育成する

森林生態系保全活動

森林生態系保全のため、それぞれの地域で開催される植林・植栽・緑化活動などへ積極的な参加を行っております。2015年度は、延べ99名が森林生態系保全活動へ参加致しました。

企業の森・RLC-G(御岳)ボランティア活動



リコーエレメックス恵那営業所
「えなの森」保全活動



公益社団法人 宮崎県緑化推進機構
主催 「緑の募金」植林行事



宝安区鳳凰
山森林公園
植林活動

河川・海岸・露地での生物多様性／環境保全活動

持続可能な社会実現の一環として、森林生態系保存活動以外にも全国各地にて、拠点周辺等の地域清掃活動、河川・海岸などでの清掃活動や生物多様性保全活動へ参加しております。

社会貢献活動全体としては、2015年度は全67件の活動を実施、延べ1,507名が参加しました。



五反田本社

東京都港湾局海上公園課 主催
海の森 植林ボランティア



首都圏事業本部

東京港野鳥公園
環境美化活動



三菱ロジスティクス[中部]

犬山市工業団地周辺
「ごみゼロ運動」

自主活動
海岸清掃ボランティア

卸町東二丁目公園内敷設
仮設住宅地雑草清掃活動

佐賀県鳥栖市 開催
県内一斉ふるさと美化活動



RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS(H.K)



三菱ロジスティクス[東部]



三菱ロジスティクス[九州]

※1 安全性優良事業所認定制度
利用者が安全性の高い事業者を選びやすくする等の観点から、輸送の安全の確保に積極的に取り組んでいる事業所を認定する制度です。具体的には、国が貨物自動車運送の秩序の確立のために指定した機関（全日本トラック協会を指定）が41の評価項目を設定し、同機関内の安全性評価委員会において認定を実施している。

表彰／認定

安全性優良事業所認定（Gマーク）

リコーロジスティクスグループでは、安全性優良事業所認定制度^(※1)の認定取得を積極的に行っています。



札幌営業所/ 岩手営業所/宮城営業所
物流センター-東北/東北営業所 迫営業所 山形営業所 福島営業所 群馬営業所
物流センター-関東 茨城営業所 埼玉営業所 千葉営業所
物流センター-江東 物流センター-厚木 物流センター-横浜/神奈川営業所
物流センター-沼津第1 福井物流センター 物流センター-中部 物流センター-関西
物流センター-福岡 物流センター-九州

包装設計

2015 日本パッケージングコンテスト包装技術賞受賞

2016 世界パッケージングコンテストワールドスター賞受賞

エコドライブ活動コンクール

2015年度 優良賞 5拠点、エコドライブ優良活動認定証^(※2) 5拠点受賞

2016年度 優良賞 4拠点、エコドライブ優良活動認定証 6拠点受賞

※2 エコドライブ優良活動認定証
昨年度エコドライブ活動コンクールで優良賞以上を受賞し、本年度も同水準の活動をしていると認定するものの。

ISO14001：2004 認証

リコーロジスティクスグループでは、2000年4サイトにおける認証取得からスタートし、2007年に日本国内全拠点、更に中国極に範囲を拡げ活動を展開して参りました。2012年、リコーロジスティクスグループ単体による認証登録から、リコーグループISO14001 統合認証に仲間入りし、リコーグループ物流部門、更にはサードパーティーロジスティクス企業として、CSR方針に従い環境マネジメントシステムを推進しております。



リコーロジスティクスグループ CSR方針

リコーロジスティクスグループは、リコーグループCSR憲章に則り、存在感と信頼感を獲得した好循環な経営基盤創出と持続可能な社会作りへの寄与に向け、次の3点を方針の骨子とする。

1. 品質活動、環境活動、情報セキュリティ活動、労働安全衛生活動、社会貢献活動の5つの活動とそれを包含するコンプライアンスを経営の重要な柱と位置付ける。
2. 事業活動の遂行上、併せ持つリスクを網羅的・統括的に捕らえ実効性・効率性のある統合的リスクマネジメントを推進する。
3. 従業員一人一人は、事業活動に関わるあらゆる利害関係者と向き合い、それを社会に対する責任と自覚し、グループ全体の課題そして個人の課題として、理解し、取り組み、責任を果たし、当CSR方針を支える。

■ 誠実な企業活動

1. 事業活動に関連する法規制及び当グループ各社の同意するその他の要求事項、必要であれば可能な範囲で自主基準を定め、これを順守する。
2. 現在及び将来の顧客ニーズを理解し、顧客要求事項を理解し、顧客の期待に答える。
3. 事業活動に関わる重要情報流出防止とシステム障害発生防止及び発生時における迅速な業務復旧に努める。

■ 環境との調和

4. 事業活動が環境に与える影響を削減する為、(1)大気汚染・土壌汚染・化学物質による汚染の防止(2)省エネルギー・省資源化(3)廃棄物の削減に努める。

■ 人間尊重

5. 従業員一人一人、公正さと責任の保証のもと、自主性を尊重し、互いに信頼で結び合い、お互いを尊重しあえる明るい職場環境を築く。

■ 社会との調和

6. 社員、パートナーに対し、社会的責任の教育と啓蒙活動を行い、周知と理解の基、あらゆる活動を通して地域社会と共存し、積極的な役割を果たし貢献することにより、良好な関係を築く。
7. CSR方針は公開する。

会社基本情報

会社名	リコーロジスティクス株式会社 (英文名：RICOH LOGISTICS SYSTEM CO.,LTD)
本社所在地	東京都品川区東五反田 5-22-33
設立	昭和39年2月1日
資本金	4億4,800万円（2016年3月末現在）
代表者	代表取締役 社長執行役員 若松 勝久
従業員数	連結：3,247名 単体：1,962名（2016年3月期 実績）
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 一般貨物自動車運送事業 2) 貨物運送取扱事業 3) コンピューター・事務用機器類及びその消耗品等の回収・リサイクル事業 4) 倉庫業及び保税上屋業 5) 通関業 6) 航空貨物運送取扱事業 7) 港湾運送事業 8) 外航海運貨物運送取扱事業 9) 包装設計並びに包装資材の製造・販売 10) その他定款に定める事業
関連会社	<p>三愛ロジスティクス株式会社[東部]</p> <p>三愛ロジスティクス株式会社[関東]</p> <p>三愛ロジスティクス株式会社[東京]</p> <p>三愛ロジスティクス株式会社[中部]</p> <p>三愛ロジスティクス株式会社[関西]</p> <p>三愛ロジスティクス株式会社[九州]</p> <p>RICOH LOGISTICS CORP.[USA]</p> <p>RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS(H.K)Ltd.[香港]</p> <p>理光国際貨運代理（深セン）有限公司[中国]</p>

会社の歩み

- 1964年 2月 三愛運輸株式会社 創設(東京都大田区)
取締役社長に市村 清就任
- 1970年 9月 一般区域貨物自動車運送事業 免許取得(東京)
- 1971年 2月 厚木事業所・東北事業所 開設
- 1976年12月 自動車運送取扱事業 免許取得(東京)
- 1980年 2月 自社倉庫竣工 仙台営業所 オープン
- 1981年 1月 本社新社屋竣工(東京都大田区)
京浜島物流センター オープン
- 1987年 2月 物流センター厚木 オープン
10月 物流センター草加 オープン
- 1989年 2月 リコーロジステック株式会社に社名変更
- 1991年 8月 物流センター御殿場 オープン
- 1994年 8月 国際物流センター オープン
- 1995年 2月 RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS(H.K.)LTD.を香港に設立
中国華南地区市場へ本格進出
4月 リコーインターナショナルロジステック株式会社に社名変更
リコーロジステック(株)とリコーインターナショナルシステムズ(株)が合併
10月 「95ロジステクス大賞奨励賞」受賞
受賞テーマ「国際物流センターの情報システム化」
- 1996年 5月 アメリカ カリフォルニア州に北米支店を開設
- 1997年 4月 リコーロジステクス株式会社に社名変更
- 1998年10月 横浜物流センター オープン
10月 「E-POCHグッドパッケージング賞」受賞
(環境にやさしい段ボール緩衝材)
- 1999年10月 「99年ロジステクス大賞奨励賞」受賞
受賞テーマ「輸出入荷システムの改善による
顧客との信頼関係の強化」
- 2000年 5月 九州事業部を分社化
三愛ロジステクス(株)[九州]を設立
7月 国内関連会社3社 社名変更
三愛物流東北(株)→三愛ロジステクス株式会社[東北]
三愛物流中部(株)→三愛ロジステクス株式会社[中部]
三愛物流関西(株)→三愛ロジステクス株式会社[関西]
7月 オランダ アムステルダムに欧州支店を開設
10月 東北リサイクルセンターを開設
回収リサイクル事業を更に強化
12月 「ISO14001」認証取得
(1)本社事務所[東京都品川区]
(2)京浜島サイト(東京ロジステックセンター) [東京都大田区]
(3)大黒サイト(国際物流センター) [横浜市鶴見区]
(4)BCGサイト(物流センター御殿場) [静岡県御殿場市]
- 2001年 7月 北海道への業務拡大に伴い呼称を変更
三愛ロジステクス株式会社[東部]
- 2001年 9月 「ISO14001」認証取得
(1)BCAサイト(物流センター厚木)[神奈川県厚木市]
(2)三愛ロジステクス 東北サイト[宮城県柴田郡]
(3)三愛ロジステクス 岡崎サイト[愛知県岡崎市]
(4)三愛ロジステクス 淡路サイト[大阪府大阪市]
(5)三愛ロジステクス 鳥栖サイト[佐賀県鳥栖市]
11月 三愛ロジステクス株式会社[東京]を設立
12月 日本全国98行政区で「産業廃棄物収集運搬業」許可
- 2002年 3月 三愛ロジステクス株式会社[関東]を設立
5月 第三回物流環境大賞「物流環境保全活動賞」受賞
受賞テーマ「循環型ロジステクスシステムの構築」
8月 RICOH LOGISTICS CORPORATIONを
米国(カリフォルニア)に設立
10月 「2002年度ロジステクス大賞技術賞」受賞
受賞テーマ「SCM&グリーンロジステクスを融合した
ビジネスモデルの構築 ～ゆりかごからゆりかごへ
“循環型ロジステクスシステム”～」
11月 ゼロエミッション(ごみゼロ)倉庫実現
(物流センター御殿場・物流センター厚木)
- 2003年 3月 ゼロエミッション(ごみゼロ)倉庫実現
(東北物流センター・淡路物流センター・鳥栖物流センター)
10月 ロジステクスパトナー主催の
最新ロジステクスセミナーで“物流と環境対策”講演
10月 JILS主催のロジステクス強調月間2003
“九州ロジステクス講演会”で
「循環型ロジステクス」を講演
12月 「ISO 14001」認証取得範囲 全45サイトに拡大
12月 三愛ロジステクス株式会社[関西]
淡路・天満事業所が「安全性優良事業所」認定
- 2004年 2月 JILS主催のロジステクス関西大会2004で
「循環型ロジステクス」を講演
3月 ゼロエミッション(ごみゼロ)倉庫 全17サイトに拡大
8月 「ISO14001」認証取得範囲 全47サイトに拡大
11月 理光諮詢(深圳)有限公司を中国に設立
12月 「安全性優良事業所」12事業所に拡大
12月 ISMS認証基準(Ver2.0)/BS7799-2:2002の認証取得
- 2005年 1月 物流センター関西 オープン
6月 チーム・マイナス6%参加
- 2006年 2月 物流センター埼玉 オープン
- 2007年 3月 ISMS認証基準(Ver2.0)/BS7799-2:2002をISO27001に移行
4月 理光諮詢(深圳)有限公司を
理光国際貨運代理(深圳)有限公司に社名変更
12月 「ISO14001」認証取得範囲 全組織に拡大
12月 RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS(H.K.)LTD.と
理光国際貨運代理(深圳)有限公司が
「ISO27001」を認証取得
- 2008年 5月 物流センター関東 オープン
10月 「08ロジステクス大賞環境賞」受賞
受賞テーマ「環境経営の深化に向けたグリーン
ロジステクスの高度化」
- 2009年12月 「ISO14001」認証取得範囲 RICOH INTERNATIONAL
LOGISTICS(H.K.)LTD.と理光国際貨運代理(深圳)有限公司に
拡大
- 2010年 8月 物流センター北名古屋 オープン
9月 物流センター板橋、関西リサイクルセンター オープン
- 2011年 3月 理光国際貨運代理(深圳)有限公司 自社車両導入
- 2012年 2月 RICOH LOGISTICS CORP.[USA]が「ISO27001」を認証取得
5月 物流センター横浜 オープン
8月 理光国際貨運代理(深圳)有限公司 華南物流センター オープン
12月 「ISO14001」認証をリコーグループ統合認証で取得
- 2013年 8月 「日本パッケージングコンテスト大型重量物包装部門賞」受賞
11月 物流センター宮城 オープン
「ISO9001」認証取得
首都圏事業本部 メジャーカスタマー事業部 電子デバイス課、
パーツ物流課、国際事業本部 マーケティングセンター
- 2014年 1月 自社倉庫・岩手営業所 新社屋オープン
2月 2月1日、リコーロジステクスグループが設立50周年を迎える
7月 物流センター城島 オープン
8月 「日本パッケージングコンテスト適正包装賞」受賞
11月 物流センター川崎、山武営業所 オープン
国際ロジステクスセンターがAEO (Authorized Economic Operator)
制度 特定保税承認 特定保税蔵置場として東京税関より承認
- 2015年 7月 物流センター生麦 オープン
8月 物流センター京浜島内に物流技能伝承の場・トレーニングセンターを開設
「日本パッケージングコンテスト包装技術賞」受賞
10月 「2015年度ロジステクス大賞 奨励賞」受賞
(受賞テーマ「通販物流ネットワーク再構築による、物流センターオペレーション
の技術革新と、物流ネットワーク全体最適化の実現」)

・この報告書の内容に関するご意見、
お問い合わせは下記で承っています。

リコーロジスティクス株式会社

品質本部 CSR・品質統括部

〒141-0022

東京都品川区東五反田5-22-33

TEL : 03-5449-1215

FAX : 03-5449-1241

URL : <http://www.rlc.co.jp/>